

# 音楽の時間・映画の時間

## 電気録音とトーキー映画

### 前史

主体（録音・録画機材）の位置と時間の関係

- ▶ 音楽：演奏の忠実な再現（ドキュメンタリー）を指向
- ▶ 映画：映画内部に構築された物語（フィクション）を指向

### 機械式録音と仮想音響

- ▶ 蓄音機のラッパに吹き込むため、実際とは似ても似つかない配置で演奏しなければならなかった
  - ▶ あまり音が大きすぎると録音用の針が飛んでしまう
  - ▶ 原盤表面のワックスを柔らかくするため、会場内の気温は30度以上に保たれた
  - ▶ 高音域と低音域はこもってしまい、中音域のみが響く
  - ▶ テノール歌手がもてはやされ、バイオリン、ピアノは敬遠される
- ▶ モノ・オーラル（一耳聴取）と聴取空間

☞ Caruso, E. (1902) *E Lucevan Le Stelle*. HMV（プッチーニ『トスカ』より）

### 無声映画と舞台芸術

- ▶ リュミエール兄弟のドキュメンタリー的映像から、メリエスのスペクタクル的映像へ
  - ▶ 舞台芸術的な場面展開と、視覚のトリック
  - ▶ カメラはあくまでも固定

☞ Lumière, L. (1895) *L'arroseur arrosé*

- ▶ ドキュメンタリーではなく、シナリオに沿って撮影された（おそらく）最初の映画

☞ Méliès, G. (1903) *Le Mélomane*

- ▶ 多重露出による「奇術」。カメラは固定。ほぼその当時のミュージックホールの舞台そのもの。

☞ Porter, E. S. (1903) *The Great Train Robbery*. Edison Manufacturing Company

- ▶ クロスカットティング（複数の異なる場面の並行進行）
- ▶ 二重露出
- ▶ ロケ撮影
- ▶ パニング

## 電気録音技術の導入

### 電気録音の特長

☞ New York Metropolitan Opera (1925) *Adeste Fideles*. Columbia

- ▶ ダイナミックレンジの拡大→ドキュメンタリー指向の全面化→原音忠実性・ステレオ技術へ
- ▶ 4850人の合唱

### アフレコという不思議な世界

☞ Ub Iwerks (dir.) (1928) *Steamboat Willie*. Celebrity Productions

- ▶ ウォルト・ディズニーによる一人全役

### トーキー映画とブームマイク

☞ Frank Tuttle (dir.) (1930) *True to the Navy*.

- ▶ 役者（クララ・ボウ）のマイク目線

## 画のモンタージュ、音のドキュメンタリー（1930年代～）

### 映画における音のカラーージュ手法

☞ Fritz Lang (dir.) (1930) *M* Vereinigte Star-Film GmbH

☞ Rouben Mamoulian (1932) *Love Me Tonight*. Kino International DVD

### ポピュラー音楽におけるマイクロフォンの意味

☞ アーネスト・ウィリアムズと集団（1933）「沈んでいけ、オールド・ハンナ」アラン・ローマックスによるフィールド録音

- ▶ 「フォークロア研究家の役割とは、人々と、世界の文化の大きな主流をつなぐこと」（ローマックス、2007. p.101）
- ☞ Crosby, B. (1944) Swing on a Star. Brunswick
  - ▶ クルーニング唱法→マイクを通して声を「不自然」に演奏の上に乗せる
- ☞ Les Paul (1948) Brazil. Capitol Records
  - ▶ アセテート盤とターンテーブル2機を使ったオーバーダビング
  - ▶ 回転数の調整による「速弾き」

## 磁気テープとサウンド・オン・サウンド

### フィル・スペクターとウォール・オブ・サウンド

- ☞ Darlene Love (1963) “White Christmas,” A Christmas Gift for You From Phil Spector. Phil Spector Records
  - ▶ ウォール・オブ・サウンド
    - ▶ モノラル指向
      - ▶ ステレオ的な原音忠実性は、「レコードのサウンドの制御権をプロデューサーからリスナーに譲渡してしまうもの」
    - ▶ エコー・チャンバー
      - ▶ 特定のスタジオでしか出ない音
    - ▶ 磁気テープとマルチトラック録音機を使ったオーバー・ダビング
      - ▶ 音のレイヤリングという発想（ロックンロールへのワグナー的アプローチ）
    - ▶ AMラジオやジュークボックスを通して聴いた場合に最も深みのある音が出る音作り
      - ▶ リスナーの耳に直接届けるためのプロダクション

### サイケデリック・サウンド

- ☞ Jimi Hendrix (1967) “Are You Experienced,” Are You Experienced. Track Records
  - ▶ テープの逆回転
    - ▶ 磁気テープを使ったマルチトラック録音→チャンネル毎に全く異なる処理→再統合
      - ▶ ドラムス及びギターのチャンネルは逆転
  - ▶ モノラル録音

## なぜ、音楽ではドキュメンタリーが主流だったのか？

### 技術的特性

- ▶ スタート地点における現実再現性の高低（埋めなくてはいけない要素の違い）
  - ▶ 映画：リアリズムの過剰
    - ▶ 物語的時間を、作品内部の時間・空間の編集により構築しなくてはならない、という衝動
  - ▶ 音楽：視覚情報の欠落とフェティシズム
    - ▶ バイノーラルな遠近情報さえも不在な状態において、針や盤面のノイズが演奏そのものの「嘘」を露呈してしまう（トインビー、2004、189）

### 「パフォーマンス」の支配・介在

- ▶ 映画：観客（カメラ・マイク）を舞台上のリアリティに引き込む手法の発達
- ▶ 音楽：録音メディア以前に楽曲そのものが虚構の時間を構築したものであった（マイクが演奏の内側に入ることへの懐疑）

### フィルム・磁気テープのリニア性・親編集性

- ▶ メディアの形状が持っている、切り貼りできる操作性

## 参考文献

- ジェイソン・トインビー／安田昌弘訳（2004）『ポピュラー音楽を作る～ミュージシャン・創造性・制度』みすず書房
- Jerrold Northrop Moore (1999) Sound Revolutions: A biography of Fred Gaisberg, founding father of commercial sound recording. Sanctuary Music Library.
- ロナルド・D・コーエン編／柿沼敏江訳（2007）『アラン・ローマックス選集～アメリカン・ルーツ・ミュージックの研究 1934-1997』みすず書房